

38 浴衣の楽しみ方 (2021年3月9日)

パリで、日本の小物や雑貨を扱うお店をいくつも見かけます。フランス人にとどような商品が人気があるのか知りたくなり、1982年に開店したパリで最も長い歴史を持つKimonoyaでお話を伺いました。

Kimonoyaで人気の高いものとして、和食器、扇子、風呂敷、華道で使う剣山、書道の道具、箸を挙げていただきました。和食器の中では、ラーメンを食べるときに使う丼を買い求める人が多いそうです。風呂敷は、2018年に開催された「ジャポニスム 2018」で、姉妹都市である東京都とパリ市が実施した風呂敷を使ったイベントをきっかけに人気が高まりました。

そして、一番よく売れるのは、浴衣だそうです。浴衣は着物の一種で、一般的には木綿で作られています。日本では、特別な行事の機会に着物を着ることはありますが、着物は着付けが難しく、手入れも手間がかかることから、日常生活で着物を着る人が減ってしまいました。しかし、近年は、浴衣は比較的着付けが簡単なことから、夏の花火大会やお祭りの際に、ファッションとして浴衣を着る若者が増えています。



では、フランス人はどのような機会に浴衣を着ているのかと不思議に思いましたら、自宅で部屋着として着ている人が多いと教えていただきました。着物と同じ生地で作られた紐がセットになっていて、帯を使わずに紐で結ぶだけですので、簡単に着替えられます。一般的な浴衣は、丈の長さがくるぶし程度まであり、縦長の長方形をしている袖の肩から下のラインは縫わずに開いていますが、丈が短く、洋服と同じような袖とポケットが付いた浴衣もありました。丈が短いと歩きやすく、袖が開いているとドアノブにひっかかってしまうことがありますが、このような形であればその心配もありません。短い浴衣も日本製だそうですが、日本ではあまり見かけませんので、輸出用に作られている浴衣ではないかと思えます。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

さらに、浴衣の上に綿入りの半纏を着て、下駄や草履を履いている人もいます。日本では、温泉旅館に泊まる時は浴衣を着ますが、自宅にいるときに浴衣で過ごす人は多くないと思います。フランス人は、浴衣をバスローブのように使っています。本来は浴衣は湯上りに身に着ける部屋着ですので、まさしくバスローブです。家の中で靴を履かない日本人には、自宅の中で下駄や草履を履くことは真似できませんが、日本人も部屋着としてもっと浴衣を楽しんでもよいのではないかと思います。フランス人から、浴衣の楽しみ方を教えてもらいました。

